

あしたのための本シリーズ

しゃかい かくさ

「社会格差はどこから？」

「女と男のちがいて？」

プランテルグループ／文 ルシ・グティエレス／絵

ジュアン・ネグレスコロール／絵

宇野 和美／訳 あかね書房

この本は40年以上前にスペインで出版された本を新しくして出版しなおしたのもです。色鮮やかなイラストで社会の問題点や疑問を投げかけてきます。古い本だから内容も古いと思いますか？いいえ、社会格差や男女差別などは今の日本でも同じようなことが起こっていると言えます。今時男女差別する人なんていない……本当にそう思いますか？



最後のドラゴン

ガレット・ワイヤー／著

ケイティー・ハーネット／画

三辺 律子／訳 あすなろ書房

特別なドラゴンとして生まれたグリシャは不思議な鈴の音で誘き出され魔法使いに捕まってしまう。ティーポットの中に閉じ込められ再びドラゴンの姿に戻るのは遙か先の事だった。時が過ぎ久しぶりに外の世界へ出られるようになり、ウィーンで仲間たちと過ごしていたある日、グリシャは孤独な女の子、マギーに出会った。



2020年
富田林市立図書館から

夏のおてがみ



中学生のみなさんへ

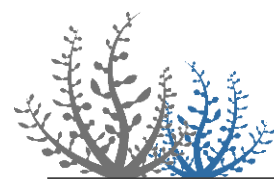
まいにち あつ
毎日毎日暑いのに、

やることがたくさんあって大変ですね。

つかれた時は一度立ち止まって

ぜんぜん
全然違うことを考えてみるのもいいかも。

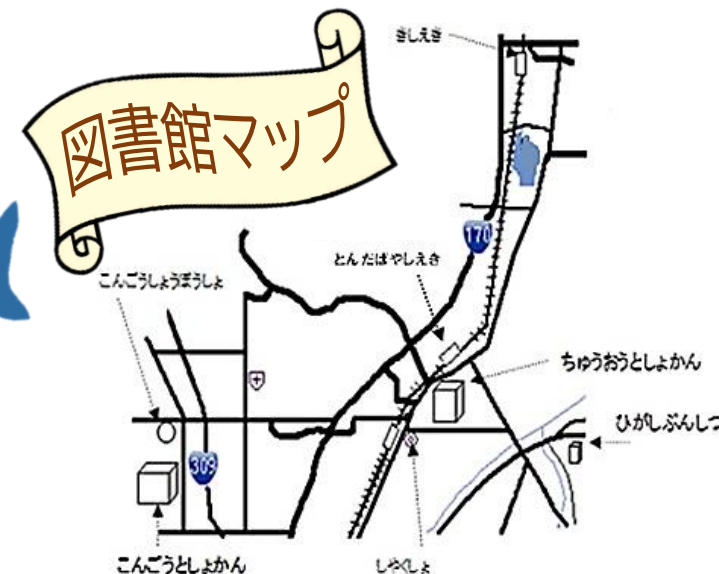
せっかくだから本の世界に旅立ってみませんか？



「走る図書館」が生まれた日

シャーリー・グレン／作 渋谷 弘子／訳 評論社

司書のメアリー・レミスト・ディットコムは、大人やお金持ちの人、教育をうけた人や町に住んでいる人だけでなく、すべての人が図書館の本を利用できるようにすると心に誓い、アメリカで初めて本の荷車を、そして移動図書館車を実現させました。今では世界中に当たり前にあり、富田林市でも「つつじ号」が走っています。



元号ってなんだろう

大化から令和まで

宮瀧 交二／監修 おおつか のりこ／文

藤原 ヒロコ／絵 岩崎書店

元号は、飛鳥時代から日本にある紀年法です。最初の「大化」からいまの「令和」までこれまで二四八の元号が生まれています。むかしは、元号をあたらしくする改元がたびたびおこなわれていましたが、いまは、新しい天皇が即位したときにしか改元していません。むかしの改元の理由や方法、そして、元号法ができるまでをみてみましょう。

ぼくたちはみんな旅をする

ローラ・ノウルズ／文 クリス・マッデン／絵

石川 直樹／訳 講談社



水中を、空中を、陸の上を信じられないほど遠くまで移動する動物たち。見開きの2ページで魚や鳥たくさんの動物たちが、なぜ旅をするのかを教えてくれる絵本です。移動距離や生息地域も詳しく紹介され、人間だけが賢く旅をしているのではないことに気づくでしょう。あなたは、何のために、どこへどんな旅をしますか。

日本全国祭り図鑑 西日本編・東日本編

芳賀 日向／監修 フレーベル館

祭りは、全国各地で、様々なかたちで行われます。豊作や安全を祈願するもの、伝統芸能を披露するもの、その土地の歴史上の人物を祭るものなど、込められた思いはそれぞれ違います。このシリーズでは、各地の代表的な祭りを紹介しています。写真もたくさん載っているの、行ってみたいお祭りを探してみませんか？



みかん、好き？

魚住 直子／著 講談社

父のUターンで瀬戸内海の島に引っ越してきた拓海。母も兄も家を出てしまい、父と祖母と暮らす。東京から一人でやってきたひなた。三人は高校一年生。ひなたは拓海の祖父が作るみかんが大好き。三人はみかんの花が香る頃からひなたに振り回され、みかん作りを手伝うことになる。みかんが育つ様に三人も成長していく物語。



しろ城！105 ①巻②巻

公益財団法人 日本城郭協会／監修 フレーベル館

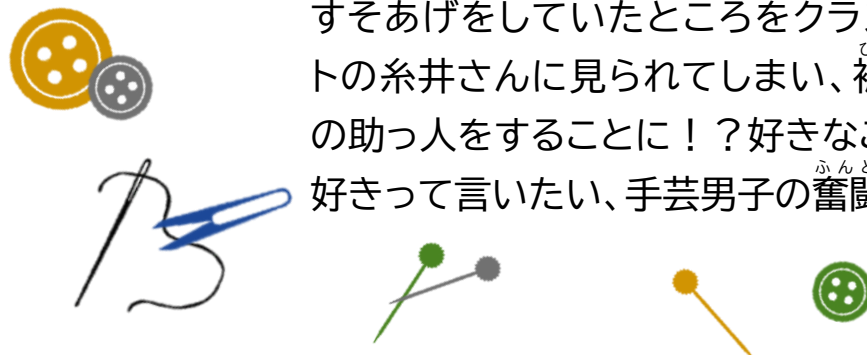
好きな城はありますか。大阪に住んでいるので大阪城には親しみがあるかもしれませんがね。この本では古代から近代までの城をたくさん紹介しています。写真も豊富に使われています。その時代の特徴や城の用語、石垣についても書かれています。城初心者から城好きまで満足できる内容です。実際に城を訪ねてみるのも楽しいですよ。



ぼくのまつり縫い

神戸 遥真／作 井田 千秋／絵 偕成社

針宮優人はサッカー部の中学一年生、でも実はサッカーが苦手。本当は裁縫が好きなのに、恥ずかしくて友達には言えない。けれど、ケガで部活を休んでいたある日、制服のすそあげをしていたところをクラスメートの糸井さんに見られてしまい、被服部の助っ人をするに！？好きなことは好きって言いたい、手芸男子の奮闘記。



炎をきりさく風になって

ボストンマラソンをはじめて走った女性ランナー
フランシス・ポレッティ／作 クリスティーナ・イー／作
スザンナ・チャップマン／絵 渋谷 弘子／訳 汐文社

ボビーは走ることが好きな女性です。ある日、ボストンマラソンを見て、自分も参加したいと思うようになります。しかし、女性がフルマラソンを走るなんて考えられなかった時代、両親は強く反対し、大会からも出場を拒否されてしまいます。それでも男性に混ざってフルマラソンを走りぬいたボビーは、新しい歴史をつくるのでした。



ライオンとタカとアリになった男の子

菱木 晃子／文 MARUU／絵 BL出版

ライオンとタカとアリの願い事を聞いてあげた代わりにいつでもライオンにもタカにもアリにも変身できる、という力を手にいれた男の子。その男の子が、その力でトロールにつかまった三人のおひめさまを助け出す、ノルウェーのむかしばなし絵本です。色使いが見事なとても美しい絵が、むかしばなしを引き立てています。



月でたんじょうパーティをひらいたら

ジョイス・ラパン／文 シモーナ・チェッカレッリ／絵
縣 秀彦／監修 廣済堂あかつき

月でパーティをするのなら、月に行くためのロケットに乗っている時からお楽しみは始まっている。無重力でぷかぷかういて楽しもう。月では空がまっ黒に見え、音がきこえない。ケーキのろうそくには火がつかない。その理由を絵本で解説しているのがこの本。月面ではアポロ計画の宇宙飛行士が残っていた「お宝」探しもできるらしい。



リスタート

ゴードン・コーマン／作 千葉 茂樹／訳 あすなろ書房

13歳のチュースは、屋根から落ちて記憶を失った。チュースはアメフトのスター選手だったらしい。けれども、校長先生は記憶喪失になったことを、すべて築きなおす貴重なチャンスだと言う。元のチュースはどんな人間だったのだろうか。各章が登場人物の目線ですすむので、主人公をとりまく人達の気持ちもよくわかります。



おい、こちら灯台

ソフィー・ブラッコール／作 山口 文生／訳 評論社

交代でやってきた新しい灯台守が、やがて任務を終えて灯台を去るまでのお話です。今では無人の灯台がほとんどですが、オイルランプや手動ゼンマイを使っていた時代は、灯台守が家族とそこに住み、船の安全を守っていました。日常の静寂と海難事故の緊迫感、人の誕生などの非日常が緻密に表現されています。

